

平成20年度

第3回

(集団研修)

健康と栄養改善のための女性指導者研修

実施要領

平成20年11月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. コース基本情報	1
2. コース背景・目的	1
3. 到達目標	2
4. 研修プログラム	2
5. 研修員参加資格要件	3
6. 研修実施体制	3
7. 研修の評価	4
8. 研修付帯プログラム	5
9. 主な宿泊場所	6
10. その他	6

付属資料

付表－1 研修員の業務関連情報

付表－2 研修カリキュラム

付表－3 平成 20 年度日程表(案)

付表－4 年度別受入実績表

1. コース基本情報

(1) コース名

和文：(集団研修) 健康と栄養改善のための女性指導者研修

英文：Group Training Program on “Women Leaders’ Training on Health Promotion and Nutrition Improvement”

(2) 受入期間

平成 20 年 11 月 11 日 (火) ～平成 21 年 1 月 24 日 (土)

(3) 技術研修期間

平成 20 年 11 月 17 日 (月) ～平成 21 年 1 月 23 日 (金)

(4) 定員、割当国

定 員：8 名

割当国：ベナン、ブルキナファソ、エチオピア、ガーナ、マダガスカル、ニジェール、セネガル、ザンビア、(下線は受入国)

(5) 類型

中核人材育成型

2. コース背景・目的

アフリカ地域においては、ミレニアム開発目標 (MDGs) にも掲げられている貧困削減が最重要課題である。しかしながら特にサブサハラアフリカ地域では、現在も極度の貧困・飢餓による乳幼児死亡率の増加や妊産婦死亡の増加、HIV/AIDS、マラリアなどの感染症による死亡の増加が報告されており現地の人々の健康状態は悪化の一途をたどっている。

これらの国々では、国全体での栄養・健康問題に対する取り組みは充分ではなく、栄養士などの人材も著しく不足している。そのため住民の栄養状況を把握する手段や栄養指導に対する十分な知見を持つ栄養士の育成が不可欠である。

また「人間の安全保障」の観点からも、これらの地域で栄養改善を核としたコミュニティにおけるヘルスプロモーション活動を促進し、女性のエンパワメントをも推進できるリーダーシップをもつ女性指導者への育成が急務となっている。

本コースでは、アフリカの女性指導者を対象に、コミュニティでの食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動を実施するために必要な様々な知識、技術、能力を習得することを目的とする。

3. 到達目標

- (1) 食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動の意義を理解し、幅広い視野で地域住民の栄養と健康の関係について説明できる。
- (2) コミュニティでの食と栄養の問題を分析でき、その解決のノウハウを活用できる。
- (3) コミュニティの生活環境に即した食生活・栄養改善を目的としたヘルスプロモーション活動の計画を策定できる。

4. 研修プログラム

(1) 研修内容

来日後一週間のオリエンテーションの後、帰国までの期間、研修を実施する。主に講義、実習、視察、討論から構成される。

ア. 研修カリキュラム（付表-2 参照）

イ. ジョブレポート発表会

(7) 目的

- a. 研修員自身が問題点を再認識する。
- b. 研修員相互間で問題意識を共有する。
- c. 講師が研修員の業務内容、研修で習得したい技術・知識を理解する。

これらの発表を通じ、講師より個々の研修員の期待に対してできること、できないことを明確に示す意見交換の場とする。

(4) 発表内容

研修員は以下の3点について主に発表する。

- a. 自国でどのような仕事に従事しているのか。
- b. 業務でどのような問題を抱えているか。
- c. 研修の中で習得したい技術、知識

ウ. アクションプラン発表会

(7) 目的

- a. 研修員が帰国後に取り組むべき課題を明確にする。

- b. 実施可能な計画の立案能力を向上させる。
- c. 研修結果の発表会資料を帰国後利用する

(1) 発表内容

ジョブレポートで発表した問題点および研修中に新たに想定された問題点の解決のための計画を策定し、その目標達成のためのアクションプランを発表する（必要記載事項として、タイトル、解決すべき問題に対する目標、期間、場所、実施主体、活動内容などについての記述）。

(2) 使用言語 英語

5. 研修員参加資格要件

当該コース募集要項記載の条件

- (1) コミュニティを基盤とした栄養指導、衛生指導の政策（施策）、立案に従事している中堅職員（保健局の職員等）
- (2) 当該分野で3年以上の経験を有する者
- (3) 年齢が45歳程度までの女性
- (4) 研修期間が長く、冬は道路が凍結して危険なため、妊娠していない方が望ましい。

各コース資格要件

- (1) 所定の手続により割当国政府から推薦されていること
- (2) TOEFL CBT 200点（PBT 578点）以上に相当する英語能力を有すること
- (3) 心身ともに健康なこと
- (4) 軍隊に服役していないこと

6. 研修実施体制

本コースは、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（以下 JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を社団法人北方圏センターに委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

ア. 実施計画書作成（コース目的、到達目標、研修期間など）

- イ. 評価
 - ウ. 実施予算の執行管理
 - エ. 募集要項および実施要領等の作成
 - オ. その他
- (2) 社団法人北方圏センター
- ア. 日程表の調整・作成
 - イ. 講師、視察先等への連絡・確認
 - ウ. テキスト、資料等の手配
 - エ. その他
- (3) コースリーダー
- 研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等
- (4) 研修監理員
- 技術研修期間中、(財)日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置する。
- ア. 関係者間の連絡調整
 - イ. 通訳・翻訳
 - ウ. その他

7. 研修の評価

(1) 評価の目的

コースの到達目標（1頁参照）に基づき、研修成果の測定、分析を通じてコース終了時に、当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの質的改善を図る。

(2) 評価の方法

- ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握
- イ. 研修員が提出する質問票による評価
- ウ. JICAによる評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 改善検討会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、講師、社団法人北方圏センター等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善に向けて対応方針を検討する。

8. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に、東京国際センター（以下 TIC: Tokyo International Center）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

TIC で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・行政、経済、教育などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として 10 時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程

日 程	内 容
11 月 12 日（水）	集合ブリーフィング
11 月 13 日（木） 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の社会と日本人」「日本の経済」 研修講義「ヘルスプロモーション概論」
11 月 14 日（金） 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の教育」 講義「日本の政治・行政」「日本の歴史・文化」
11 月 28 日（金）	日本語講習
12 月 1 日（月）	日本語講習

9. 主な宿泊場所

東京国際センター（TIC）

所在地：〒151-0066 東京都渋谷区西原 2-49-5

Tel (03) 3485-7051 Fax (03) 3485-7904

帯広国際センター（OBIC）

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1 番地 2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

10. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上

平成20年度「健康と栄養改善のための女性指導者研修」コース研修カリキュラム

単位：日

科目	講義	演習	視察	討論	担当講師	講義内容
到達目標1:食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動の意義を理解し、幅広い視野で地域住民の栄養と健康の関係について説明できる。						
日本の栄養政策とその変遷/開発途上国における食事調査	1.0				国立健康・栄養研究所 研究企画評価主幹 健康・栄養調査研究部長 吉池 信男 研究員 三好美紀	日本の栄養政策の現状と変遷および、政策策定の基礎となる国民栄養調査について解説する。また後半は開発途上国における栄養調査のうち、主として食事調査の実践と手法について学習する。
JICAの対アフリカ保健医療協力	0.5				JICA人間開発部	我が国の対アフリカ保健医療協力の実態を紹介しながら、人間の安全保障、TICAD、援助協調、HIV/AIDS対策などについてわが国のODAでの取り組みとスキームなどについて解説する。また研修員に対する帰国後の支援についても触れる。
食文化論	0.5				帯広大谷短期大学 名誉教授 池添 博彦	歴史的パースペクティブにおいて日本の食文化を紹介。明治維新から第二次世界大戦後、現在に至るまでの「米」の果たした役割、米について創意工夫の産物を列挙し米文化の変容・影響を説く。
ヘルスプロモーション概論	1.0				東京大学大学院 医学系研究科 教授 神馬 征峰	個人の健康改善と地域全体の健康改善を考えるには個人のみならず地域社会全体での健康改善のための環境づくりが不可欠である。このような視点からヘルスプロモーションの概念が生まれ、1990年代にはProcede-Proceed Modelなどが紹介され先進国、途上国双方で注目されている。この概念は途上国の地域栄養改善などに特に有効であり、この手法をつかって地域診断と改善のための政策立案が可能である。本講義では各国の事情を踏まえながらヘルスプロモーションの概念と適用について解説するとともにコミュニティにおける「行動変容 (Behavioral Change Communications)」についても触れる。
女性のエンパワメント・リプロダクティブヘルス	1.0				JOICFP	リプロダクティブ・ヘルスについて討論し、諸事例をあげながら効果的な女性のエンパワメントのための方途について学ぶ。またJOICFPが途上国で採用している紙芝居やBCC、マギーエブロン、マグネルキットやCHW(Community health Worker)が使っている効果的なツールの利用法も紹介する。
女性のHIV/AIDS:母子感染と栄養	0.5				早稲田大学 若杉教授	アフリカにおけるエイズの現状や母子感染について理解し、栄養に関連した分野からエイズの予防と対策について学習する。また、現場で患者に関わる女性指導者の役割と重要性について学ぶ。
HIVと栄養	0.5				静岡英和学院大学短期大学 木下講師	栄養士の立場からHIV/AIDS感染者に対する栄養指導の留意点および実践の方法について日本での事例を通じて解説する。実際に用いられている食事、食品などを紹介する予定としている。
女性、栄養と保健システム	1.0				JICA専門員 杉下 智彦	アフリカにおける保健システムとHIV栄養改善のためのキャパシティ開発プログラム(capacity development)について討論を通じて解説する。HIV-Nutrition Integrated programについても言及する。
アフリカと日本の食文化(学生との交流)	0.5	0.5			帯広大谷短期大学	調理を通じて研修員の有する知識や食品利用についての知見と日本の学生による食文化の交流を通じて栄養についての理解を深める。
身近な資源を活用した食と生活改善の事例	1.0				恵泉女学園大	女性が有機肥料やソーラークッカーなどの家庭菜園を使用し、自分一人でもできる栄養改善の手法について学習する。
途上国での衛生状況の対処と指導啓発活動	0.5				元青年海外協力隊 一戸 由希子	主に小・中学校生を対象とした衛生教育活動・HIV予防啓発活動について、現地での体験を基に途上国で求められているものは何かについて講義・討論する
到達目標2:コミュニティでの食と栄養の問題を分析でき、その対策のノウハウを活用できる。						
地域栄養	0.5	0.5			食・栄養改善フォーラム 理事長 足立己幸	開発途上国における地域栄養の実態と効果的な栄養改善のための方途を食生態学に基づいて解説する。またわが国の栄養改善の経験や問題点についても昼食作りの実習を通じて学ぶ。
コミュニティーエンパワメントと参加型栄養教育1、2	1.0	1.0			国立国際医療センター研究所 栄養障害研究室長 西田美佐 名寄市立短期大学 助教授 石川みどり	開発途上国における地域住民参加型の栄養改善のヘルスプロモーション方法を講義とワークショップで学ぶ。
栄養と代謝	0.5				帯広大谷短期大学 教授 池添 博彦	微量栄養素欠乏(ヨウ素欠乏症)と代謝について
栄養士の役割 栄養指導概論	1.0				帯広大谷短期大学 教授 山崎 民子	栄養士の役割、栄養指導の成立と変遷、21世紀の健康づくりと栄養指導、日本の食生活の現状と問題点、食事計画、食生活・栄養教育の方法と技術、栄養指導の評価、特定給食施設別栄養指導
糖尿病に関する演習・実習	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 教授 山崎 民子	糖尿病について。糖尿病交換表の使い方解説等。糖尿病のモデル食展示。糖尿病食の試作。
栄養素欠乏症及び改善料理試作	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 教授 山崎 民子	ビタミン欠乏症・ヨード欠乏症・鉄欠乏症について。ビタミンA、亜鉛、鉄、カルシウムを多く摂取可能な料理の作成。ヨードが摂取できる料理の試作。研修員の国にもある材料を使い、栄養改善のための献立作成・調理・説明・評価・討論を行う。
自分の身体状況に合った献立の作成及び栄養価計算・評価		1.0			帯広大谷短期大学 教授 山崎 民子	自己の適正体重・基礎代謝量・必要な栄養量を調べ、食料構成・レシピを作成、栄養計算、評価を行う。
食品の衛生・安全管理	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 教授 山崎 民子	衛生・安全管理の意義、食中毒・感染症について、ネズミ及び昆虫などの対策、事故防止、衛生管理体制、事故発生時の対応、衛生教育、安全管理
公衆栄養学			1.0		帯広大谷短期大学 教授 植田 志摩子	生活習慣病の国際比較/我が国の死亡統計に見る生活習慣病の実態/日本とアメリカの食生活指針/国民栄養調査(BMIを含め)などについて演習を交えながら理解する。
食品の保蔵と加工	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 教授 池添 博彦	食品の加工理論、加工法と加工技術、及び各種保蔵法 大豆を使った加工品の紹介
食品加工・保存技術		1.0			食品加工技術センター	地場産品を使った最新の加工技術と帰国後応用可能な加工技術の習得(大豆以外のトウモロコシなどの加工)
到達目標3:コミュニティの生活環境に即した食生活・栄養改善を目的としたヘルスプロモーション活動の計画を策定できる。						
ヘルスプロモーションの実践的展開1、2	1.0				増毛町役場福祉厚生課	事例を通じヘルスプロモーション推進のプロセスと促進要因、視点の持ち方などを学ぶ。また帰国後ヘルスプロモーションを推進していくための有効な方途についても触れる。
食生活改善運動の歴史と流れ	0.5				元生活改善普及員 川原 美穂恵	昭和35～45年ころの食生活を取り巻く農家の環境、農家所得、農家住宅、衛生状況、衣生活、農民の健康問題を通じて食生活改善運動の重要性を事例を通じて学ぶ。
健康帯広21の取り組み	3.0		3.0	0.5	帯広市保健福祉センター	我が国の21世紀の保健政策の中心となる健康日本21の政策と現場での取り組みを紹介する。・帯広市の保険事業・母子保健事業・成人保健事業
保健所の組織・役割と公衆衛生業務、生活習慣病	1.0		0.5		北海道帯広保健所	我が国の保健所の概要、栄養・衛生行政、栄養士業務について 栄養相談、試験検査室の視察。生活習慣病について(医学的見地から)。
エイズ予防啓発事業推進活動	0.5				アーニー出版 北沢 杏子会長	HIV/AIDSは全世界で深刻な健康問題となっているが、本講義では地域の住民に対する啓発活動事業推進のための効果的な手法をロールプレイ、パペットなどを用いた参加型手法で学ぶ。
現場実習(北斗病院)		0.5	0.5		北斗病院	病院の栄養士の役割、栄養療法の実態を院内見学を行いながら学ぶ。我が国の地域医療におけるレファラルシステムを理解する。
学校給食共同調理場	0.5		0.5		帯広市学校給食調理場	小・中学校における児童生徒の栄養と給食について視察しながら学校保健の有効性を紹介する。
北海道立子ども総合医療・療育センター視察			1.0		北海道立子ども総合医療・療育センター	医療・保健・福祉の有機的な連携により、母子への一貫した総合的な医療・療育の有り方や、新生児医療に対する取り組み等について学ぶ。
JICAプロジェクト形成手法	1.0	1.0			GLM(グローバルリンク・マネジメント)	JICAのプロジェクト案件形成(計画策定)から実施管理、評価について理解し、PCM手法の要となるロジカルフレームワークによるプロジェクト管理手法を習得する。
アクションプラン検討会及び意見交換会				3.0	東京大学教授 神馬 征峰 コースリーダー 崎坂 香屋子	ヘルスプロモーションの理論などに依拠しながら各研修員が本研修を通じて得た知見をもとに帰国後の行動計画を具体的に作成してもらう。またそれを効果的に発表するための取りまとめ方について適宜助言を与える。
合計	20.5	8.5	5.5	3.5		

平成20年度(集団)「健康と栄養改善のための女性指導者研修」コース日程表(案)

10/30現在

日程	曜日	時間	区分	プログラム	担当	会場	備考
11/11	火			来日			
11/12	水			集合ブリーフィング		東京国際センター	
11/13	木			ジェネラルオリエンテーション		東京国際センター	
		13:30-15:30	講義	ヘルスプロモーション概論	東京大学大学院 神馬教授		
11/14	金			ジェネラルオリエンテーション		東京国際センター	
11/15	土			休日			
11/16	日			休日			
11/17	月	9:30-10:30		JICAブリーフィング		東京国際センター	
		10:30-12:00		コースオリエンテーション	崎坂コースリーダー		
		13:30-16:00		ジョブレポート要約発表			
11/18	火	9:30-15:30	講義	女性のエンパワメントとリプロダクティブ・ヘルス	JOICFP	JOICFP	
11/19	水	10:00-12:00	講義	JICAの対アフリカ保健医療協力	JICA人間開発部 加藤氏	東京国際センター	
		13:00-16:00	講義	女性のHIV/AIDS: 母子感染と栄養	早稲田大学 若杉教授		
11/20	木	10:00-16:00	講義	身近な資源を活用した食と生活改善の事例	恵泉女学園大	恵泉女学園大教育農場	
11/21	金	10:00-16:30	講・実	地域栄養	食・栄養改善フォーラム 足立理事長	みなみかぜ	
11/22	土	9:00-11:00	講義	HIVと栄養	静岡英和学院大学短期大学 木下講師	東京国際センター	
11/23	日			休日(勤労感謝の日)			
11/24	月			振替休日			
11/25	火	9:30-11:00	講・討	東京部分研修まとめ	崎坂コースリーダー	東京国際センター	
		13:00-16:30	講義	エイズ予防啓発事業推進活動	アーニ出版 北沢杏子会長	アーニ出版	
11/26	水			(移動 東京→帯広)			
11/27	木	9:30-16:30		入館式・帯広ブリーフィング		帯広国際センター	
11/28	金	9:30-		日本語講習		帯広国際センター	
11/29	土			休日			
11/30	日			休日			
12/1	月	9:30-		日本語講習		帯広国際センター	
12/2	火	9:30-16:00	講・実	JICAプロジェクト形成手法	GLM(グローバルリンク・マネジメント)	帯広国際センター	PC講習
12/3	水	9:30-16:00	講・実	JICAプロジェクト形成手法	GLM	帯広国際センター	
12/4	木	9:00-12:00		市長表敬・アクションプランについて	崎坂コースリーダー	帯広国際センター	
		13:30-16:00		ジョブレポート発表会/懇親会(16:00-)	(社)北方圏センター		
12/5	金	9:30-12:00	講義	食文化論	帯広大谷短期大学 池添名誉教授	大谷短期大学	
		13:00-16:30	講義	栄養と代謝	帯広大谷短期大学 池添名誉教授	大谷短期大学	PC講習
12/6	土			ホームビジット			
12/7	日			休日			
12/8	月	9:30-15:30	講・演	栄養士の役割、栄養指導概論	帯広大谷短期大学 山崎教授	大谷短期大学	PC講習
12/9	火			(移動 帯広→札幌)			
12/10	水	10:30-15:30	視察	北海道立子ども総合医療・療育センター視察	北海道立子ども総合医療・療育センター	コドモックル	
12/11	木	9:30-16:00	講義	ヘルスプロモーションの実践的展開	増毛町役場福祉厚生課	札幌国際センター	
12/12	金			(移動 札幌→帯広)			PC講習
12/13	土	9:30-16:00	講義	日本の栄養政策とその変遷/開発途上国における食事調査	青森県立保健大学 吉池教授 国立健康・栄養研究所 三好研究員	帯広国際センター	
12/14	日			休日			
12/15	月	9:30-16:00	講・演	糖尿病に関する演習・実習	帯広大谷短期大学 山崎教授	大谷短期大学	PC講習
12/16	火	9:30-16:00	講・演	栄養素欠乏症及び改善料理試作	帯広大谷短期大学 山崎教授	大谷短期大学	
12/17	水	9:30-15:30	演習	公衆栄養学	帯広大谷短期大学 植田教授	大谷短期大学	
12/18	木			学校訪問			
12/19	金	9:30-15:30	講・演	自分の身体状況に合った献立の作成及び栄養価計算・評価	帯広大谷短期大学 山崎教授	大谷短期大学	
12/20	土			休日			
12/21	日			休日			

平成20年度(集団)「健康と栄養改善のための女性指導者研修」コース日程表(案)

10/30現在

12/22	月	9:00-16:30	講・実	食品の保蔵と加工	帯広大谷短期大学 池添名誉教授	大谷短期大学	
12/23	火	9:30-16:00	講・演	女性、栄養と保健システム	JICA 杉下専門員	帯広国際センター	天皇誕生日
12/24	水	9:30-15:30	講・演	食品の衛生・安全管理	帯広大谷短期大学 山崎教授	大谷短期大学	
12/25	木	9:00-16:00	講・実	学生との交流「アフリカと日本の食文化」について	帯広大谷短期大学 池添名誉教授	大谷短期大学	
12/26	金	9:30-16:00		アクションプラン討論会I	崎坂コースリーダー	帯広国際センター	
12/27	土						
12/28	日						
12/29	月			年末年始祝日			
12/30	火			年末年始祝日			
12/31	水			年末年始祝日			
1/1	木			年末年始祝日			
1/2	金			年末年始祝日			
1/3	土			年末年始祝日			
1/4	日	9:30-16:00	講義	community empowermentと参加型栄養教育1	松本大学 西田 美佐教授 名寄市立大学 石川 みどり准教授	帯広国際センター	
1/5	月	9:00-15:30	講義	community empowermentと参加型栄養教育2		帯広国際センター	
1/6	火	9:30-12:00	講義	生活習慣病	北海道帯広保健所	帯広保健所	
		13:00-16:30	講・視	保健所の組織・役割と公衆衛生業務			
1/7	水	9:30-16:30	講・実	健康帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター	帯広市保健福祉センター	
1/8	木	9:30-16:30	講・実	健康帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター	帯広市保健福祉センター	
1/9	金	9:30-16:30	講・実	健康帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター	帯広市保健福祉センター	
1/10	土			休日			
1/11	日			休日			
1/12	月	9:30-16:00		アクションプラン討論会II	G L M・崎坂コースリーダー	帯広国際センター	成人の日
1/13	火	9:30-16:30	講・実	健康帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター	帯広市保健福祉センター	
1/14	水	9:30-16:30	講・実	健康帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター	帯広市保健福祉センター	
1/15	木	9:30-17:00	講・実	健康帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター	帯広市保健福祉センター	
1/16	金	9:30-12:30	講・視	学校給食共同調理場視察	学校給食調理場	学校給食調理場	
1/17	土	13:30-15:30		大谷短期大学国際交流センター(学生との交流)		帯広国際センター	
1/18	日			休日			
1/19	月	9:30-16:00	実習	食品加工・保存技術	食品加工技術センター	食品加工技術センター	
1/20	火	9:30-16:30	実・視	現場実習(北斗病院)	北斗病院	北斗病院	
1/21	水	9:00-11:30	講義	食生活改善運動の歴史と流れ	元生活改善普及員 川原 美穂恵	帯広国際センター	
		13:30-15:30	講義	途上国での衛生状況の対処と指導啓発活動(仮)	元青年海外協力隊 一戸 由希子		
1/22	木	9:30-16:00		アクションプラン討論会III	崎坂コースリーダー	帯広国際センター	
		16:00-17:00		評価会			
1/23	金	9:30-		アクションプラン発表会/閉講式・閉講パーティ	(社)北方圏センター/国際協力機構	帯広国際センター	
1/24	土			帰国			

年度別受入実績表

1. 応募／選考（受入）人数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	累計
応募数	10名	18名	12名	40名
受入数	8名	10名	8名	26名

2. 研修員の出身国

国名	平成18年度	平成19年度	平成20年度	累計
(アフリカ諸国)				
ベナン		1名	1名	2名
ブルキナファソ		2名	1名	3名
ガーナ		1名	2名	3名
マダガスカル		1名	2名	3名
セネガル		1名		1名
ザンビア		1名	1名	2名
マラウイ	1名			1名
カメルーン	1名			1名
タンザニア	2名	2名		4名
ナイジェリア	2名	1名		3名
モーリタニア	1名			1名
ニジェール	1名			1名
エチオピア			1名	1名
合計	6カ国 8名	8カ国 10名	7カ国 8名	13カ国 26名



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
電子メール : jicaobic@jica.go.jp